



農大祭2020を開催

12月5日(土)午前9時から正午まで、「未来へ継げよう農業の道～雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ～」をテーマに「農大祭2020」を開催しました。



[会場風景]

今年始めからの新型コロナウイルスの流行で、愛知県からはイベント等の開催要件も示される中、開催できるか、どう開催するかなどを農大祭実行委員会等で何度も真剣に議論してきました。

その結果、食品バザー等の飲食を伴う催事は、実施できませんでしたが、農産物の販売を中心に開催することができました。



[専攻販売 (鉢物・緑花木)]

当日は、岡崎のアメダス(本校内に設置)の正午の気温が14.5℃と、12月とは思えない穏やかな日となり、午前8時15分の受付

開始とともに、お目当てのブースや整理券を求めて来場される方がお見えになり、例年より少なめですが、約1,000名の方に来場いただきました。

学生が丹精込めて育てた各専攻の農畜産物の直売ブースは毎年大変好評です。今年も体育館は鉢物・緑花木専攻のシクラメンやポインセチア等で埋め尽くされました。

テントブースでも、養豚・養鶏専攻の卵や露地野菜専攻のハクサイ、キャベツ、作物専攻の米等を買求める姿が見られ、ソーシャルディスタンスの確保に努めながら販売を行いました。また、例年にはないわら細工やリースなど農大生手作りの商品も並びました。



[専攻販売 (露地野菜)]



[専攻販売 (わら細工)]

後援会のブースでは、学生の保護者が収穫した野菜や花、果物、豚肉などを、隣のブースでは、協賛団体提供のお菓子やしい

たけ、牛乳、リンゴ、うずらの卵、大葉などを後援会の皆様の協力を得て好評のうちに販売を行いました。

9時30分と11時の2回実施した農大キャンパスツアーには、合わせて51名の参加者があり普段は見えていただけない圃場やトラクター等を見学して、農業や農大への理解を深めていただくことができたのではないのでしょうか。



[キャンパスツアー]

例年好評をいただいている茶道部による農大茶席は、コロナ対策のため開催できませんでしたが、茶道具の展示や和菓子を販売して、愛知の伝統文化である茶道の魅力を伝える企画を行いました。



[茶道部展示]

協賛団体・企業等の出店ブースには、コロナ禍の中5団体の出展をいただき、お茶やトマトケチャップ、ジャム、はちみつの販売や古い発動機やみあい特別支援学校の生徒さんの作品展示をしていただきました。

例年に比べると時間も短く、ブースも少なかったですが、来場者の皆さんの笑顔あふれる農大祭となり、成功裏に終わることができました。

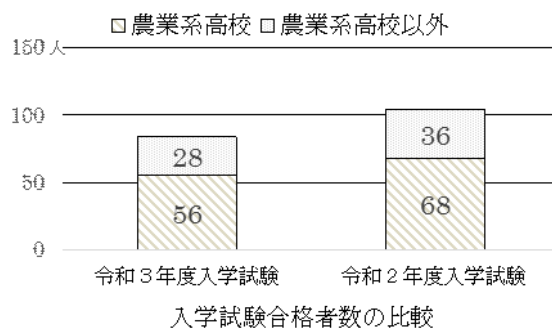
来賓、協賛団体、出展団体、来場者等、皆様には農大祭への御協力に感謝をいたしております。来年はコロナの影響がなくなり、例年の農大祭が開催できることを願っています。

(学務科 伊藤 正美)

本年度の入学試験を振り返って

12月18日(金)、一般入学一次試験の合格発表を行い、32名が合格しました。推薦入学試験の合格者52名と合わせ、84名の合格となりました。(男性61名、女性23名)

合格者の内訳は県内農業高校が56名、普通科(17名)、工業科(4名)、商業科(2名)、その他・県外農業高校生等(5名)を含めた28名です。専業・兼業農家子弟の割合は31.1%(昨年26%)です。



入学試験合格者数の比較

入学試験を振り返ると、受験者数(96名)が昨年度(140名)の受験者数から大きく減少しました。コロナ禍で高校生の進路選択に大きな影響を及ぼしたと推察されますが、来年度に向けて分析と対策に努めていきたいと思ひます。

オープンキャンパスや、農大の実習が体験できる緑の学園研修は、新型コロナウイルスへの対策を講じながら、開催することができました。今年度本校に合格した受験生の88%がオープンキャンパス等に参加しています。より多くの受験生に農大の魅力は勿論のこと、何が学べ、何ができるようになるかそしてどんな進路が実現できるかPRしていきたいと思ひます。来年度もオープンキャンパス等を実施しますので、本

校に興味のある方は是非参加していただきたいと思ひます。施設設備の見学だけでなく、農大で学ばいきいきとした学生の姿を見てほしいと思ひます。

なお、本年度は、「園芸農産課程 鉢物・緑花木専攻、切花専攻」、「畜産課程 養豚・養鶏専攻」で一般入学二次試験を実施します。詳しくは、本校ホームページを御覧ください。

(学務科 近藤 靖之)

「意見発表会」を開催しました

令和2年度意見発表会を、11月19日(木)午後1時から開催しました。今年度は「3密状態回避」のため、中央教育棟大講義室に1年生、和耕寮食堂に2年生を集め、2会場間をリモートで繋ぎました。各専攻から1名ずつ選抜された1年生8名が、全学生や職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域の農村環境、就農などについて、自らの学生生活を通じて日頃考えていることや思い等について意見を発表しました。

いずれの発表者も、発表内容はもちろんのこと、発表時間や発表態度等においても専攻職員から指導を受けて、練習を重ねてきました。当日はその成果を十分発揮して、農畜産業に対する思いや後継者としての心構え、今後の農業のあるべき姿、将来設計等を熱意を持って語り、印象深い発表内容となりました。



[8名の発表者]

校長を委員長とした4名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「豚への愛とともにとんかつを食べる」を発表した養豚・養鶏専攻の中村彩乃さん、優秀賞は「二代目としての覚悟」を発表した作物専攻の清水陽大君、「未来の私」を発表した切花専攻の鈴木結子さんがそれぞれ受賞し、校長から賞状ならびに副賞(後援会支援)を授与されました。



[喜びの受賞者と校長]

(左から清水君、校長、中村さん、鈴木さん)

最優秀賞の中村さんは、奈良県主催の「東海・近畿ブロック農業大学校意見発表会(令和3年1月14日)」に本校代表としてリモートで参加しますが、さらにその先の全国大会(2月にリモートで開催予定)への出場も目指します。

(農学科 野田 輝夫)

農業法人の専務から 就活へ向けたアドバイス

農学科1年生を対象とした第3回進路セミナーを、12月9日(水)に開催しました。

今回は、卒業生が多数就職している大口町にある服部農園有限会社で、社員の採用や育成を担当されている服部都史子専務を講師にお迎えして、社員育成へ向けた思いや就職活動のアドバイスについて講義をしていただきました。

最初に大口町の水田面積は約300haで、その3分の1の100haを服部農園が受託し

ていることや、正社員9名のうち農大の卒業生が4名活躍していることを紹介されました。

自身については、農家の次女として生まれ、初めは就農など全然考えていなかったが、父が倒れたことがきっかけで就農することになったこと等をお話しになりました。

また、服部農園を設立した時の話として、「こんな私に人がついてくるのか」と思ったこと、「最初は辞めていく若い人たちが悪いと思っていたが、そのうちに自分が変わらなければいけないと思うようになった」という考え方の変化、「自分も成長したい社員にも成長してもらいたいと思っている」という熱い想いを語られました。



[講師の服部専務と真剣に聴講する学生]

講義の中程では、これからの就職活動へ向けて、「どんな職場で働きたいか」を紙に書かせ、書いた条件や職種を「理念」「人間関係」「待遇・評価」「物理的理由」に分類して、何を重点に職業選択しているかを考えさせるワークショップも行っていただきました。

最後に服部専務は、「10年後100年後にこの水田風景を残していくためには、次世代の農業経営者を育成していくことが必要」と講義を結ばれました。

学生たちが、これから始まる就職活動や卒業後に自ら設定した目標を達成できるよう、服部専務からのアドバイスが活かされることを期待したいと思います。

(農学科 横井 信之)

指導職員向け研修を開催

指導職員の指導能力向上を図るため農学科の教職員を対象に研修会を開催しました。

11月27日(金)は、農学科施設野菜専攻の榎本主任が、専攻内でのプロジェクト指導や就職活動の支援など実際の指導の流れやポイントなど事例を踏まえて発表しました。発表の後、各職員から学生指導にあたってそれぞれ課題や指導の工夫など話し合いが行われました。

12月10日(木)は、農林水産省の事業による指導力現地強化研修を本校で行いました。「学生のモチベーション・やる気を伸ばす指導法」として講師に株式会社 Camp anula の権堂千栄実先生をお招きしました。講師から現代の若者の特徴や、学習の目的などを認識する4つの段階、その段階に応じたカウンセリングやコーチングなどの指導法について説明がありました。当日はグループごとに話し合ったり、エコグラムを使って性格診断を行うなど楽しい内容で、出席者から今後、学生指導に役立てたいとの感想が多くありました。



[指導力現地強化研修の様子]

今後もこのような研修を通じて学生指導をより効果的に行っていきたいと思います。

(教育部長 鷹羽 靖夫)

校外学習

柑橘・柿の栽培技術を学ぶ（果樹専攻）

11月30日(月)、果樹専攻2年生14名が蒲郡市神ノ郷の農業総合試験場園芸研究部常緑果樹グループおよび豊橋市石巻地区の柿桃複合経営農家への校外学習を行いました。

農大には柑橘類がハウスの宮川早生（温州）と露地の柚しかなく、学生はほ場見学や研究員からの説明、試食に目を輝かせていました。特に試食に出された「夕焼け姫（愛知柑橘1号）」「みはや」へは食いつきが良く、柑橘栽培のおもしろさと奥深さを満喫したようです。帰り際、本校職員を先頭に『おみやげ(食味調査用)』の確保にも余念がありません、、、大変おいしゅうございました。



[運転手さんにも園主さんからお裾分け、まさかの元調理師さん、、、]



[視察ほ場への移動風景]

また、豊橋市石巻地区の柿農家では、学生を引率していただいたバスの運転手さんの意外な一面が学生を驚かせました。待ち時間、やさしい柿農家から柿とナイフを渡された運転手さんがプロ顔負けのナイフ捌きを披露。以前は調理師で果物好きなんだとか。柿農家の語る産地と若手への熱い思いを聞きつつ、販路の先の人に思いをはせる貴重な時間となりました。

(農学科 長崎 晋作)

畜産課程学生が校外学習に行きました (酪農専攻、養豚・養鶏専攻)

12月2日(水)に、農学科畜産課程の2年生23名(酪農専攻12名、養豚・養鶏専攻11名)が校外学習として長久手市にある農業総合試験場と名古屋市農業センター(でらファーム)に出かけました。

コロナ感染症の影響で、今回の校外学習も開催が危ぶまれましたが、両施設においては快く受け入れていただきました。

農業総合試験場は、家畜防疫の観点から研究所内の見学はできませんでしたが、試験場の役割や業務概要、養牛研究室及び養豚研究室における研究内容について、また、家畜防疫体制について詳しく講義をしていただきました。少し専門的で難しい箇所もありましたが、試験場で研究されている色々な研究内容に興味を持って学ぶことができました。防疫については、同じように家畜を扱う仕事に携わる点から、その重要性をしっかりと理解して、厳重に管理されている施設を見学できなかったことを残念に思う一方、「徹底している防疫体制に自分たちの日頃の家畜飼養衛生管理に対する甘さ、今後の対策の必要性」について学ぶことができました。



[農業総合試験場での講義]

「名古屋市農業センター・でらファーム」は名古屋市天白区にある農業公園で、都市住民に農業のふれあい体験をしてもらうための施設があり、実際に様々なものを園芸



[ヤギとの触れ合い]

用温室や畜舎で生産しています。飼養頭数規模は農大よりも少ないですが、展示も意識した畜舎の他に、牛乳やジェラートの乳加工施設、ヒヨコをかえすためのふ卵施設があり、学生たちは普段の実習では目にすることがない施設・設備や鶏の品種展示を熱心に見学していました。また、ホルスタイン種の子牛も数頭生まれていて、農大で普段から見慣れている学生でも、やはり子牛はどこでもかわいいようで、歓声を上げながら触れ合う姿が印象的でした。

(農学科 西村 岳)

加工演習

豆腐作りと味噌作りに挑戦（作物専攻）

作物専攻では大豆の栽培から加工までの技術の習得を目的として、自分たちが栽培した大豆を使って味噌作りと豆腐作りの加工演習を行っています。11月27日（金）に作物専攻の2年生8名が、大豆の加工技術を学ぶため、講師から指導を受けながら味噌作りと豆腐作りに挑戦しました。

豆腐作りでは煮た大豆から絞った豆乳にニガリを入れ、型に入れて重りをかけて成形しました。その後、水の中で豆腐を取り出しました。また、加工の過程で出たオカラについてもサラダとハンバーグに調理しました。初めて大豆から豆腐を作った学生

からは「市販の豆腐よりも味が濃い。ボリュームがある」という声が聞かれました。



[豆腐を作っている様子]

味噌作りでは、大豆を圧力鍋で煮た後、タライの中に入れてつぶし、それに米麴と豆麴、天塩を混ぜたものをボール状にして殺菌した容器に隙間ができないように投げ込んでいきました。そして、冷暗所に1年間保存します。仕込んだ味噌は翌年度の農大祭で五平餅用の味噌作りに使用しています。1年後どのような味噌になっているか楽しみです。



[味噌作りに挑戦する学生の様子]

また、今年は五平餅作りも行いました。味噌から手作りした五平餅の美味しさは格別で、学生も喜んで食べていました。来年はコロナウイルスが落ち着いて、農大祭で五平餅を販売できることを願っています。

(農学科 古川 恵)

冬野菜の加工演習（露地野菜専攻）

露地野菜専攻では野菜の利用方法を学ぶため、自分たちが栽培した野菜を使った加工演習を年3回行っています。11月26日（木）に露地野菜専攻の2年生15名が、第3回目の加工演習を行いました。

ダイコンを利用した加工として、切り干し大根を作りました。ダイコンを洗った後、5 mm幅にダイコンを細く切ったものを水にさらしてから乾燥するものと水にさらさず乾燥させるものを作り、どちらが良い切り干し大根になるか比較試験しました。



〔切り干し大根〕

また、キャベツでは、ザワークラフト風の即席の漬物や昼食としてお好み焼きを作りました。

サツマイモはデザートとしてスイートポテト作りに挑戦しました。材料を選ぶにあたり、専攻生が「安納芋」より風味があると評価したサツマイモ品種「紅はるか」を選定しました。オーブンで焼き芋にした後に、中身をよく潰して、砂糖、卵、生クリーム、バターを混ぜて練り上げ、バニラエッセンスで風味を加えたものをくり抜いたサツマイモの皮に船形に詰めて、再度オーブンで焼いて、仕上げました。学生は、口々に「美味しい！！」という感想があらこちらで聞くことができました。今年は、サツマイモ（安納芋、紅はるか）が沢山収穫できましたので、冬の寒さに当たらないように冷蔵庫で保存し長期熟成することで格別に美味しくなった芋を直売などで2月頃まで販売する予定です。

（農学科 鬼頭 雅也）

「トマト」を使用した加工演習を実施（施設野菜専攻）

施設野菜専攻では、12月10日（木）に料理講師に山本先生を招き、農産加工演習を行いました。演習には2年生全員が参加し、専攻ハウスで収穫が始まったトマトを中心に調理を行いました。



〔加工演習の様子〕

午前中は、トマトケチャップ、ミートソース、ミネストローネ、キュウリの浅漬けを作りました。ケチャップは裏ごしをして、調味料を入れて弱火で煮詰めて作りました。ケチャップを作るのは初めてであり、簡単な手順でできる自家製ケチャップに学生は興味を持っていました。トマト収穫直後の完熟したトマトを使用したため、ミートソース、ミネストローネともにコクがあり、学生からはどの料理もおいしいと好評でした。

午後は、ピザ・マルゲリータとトマトジャムを作りました。ピザは生地を作るところから調理を始め、午前中に作ったトマトケチャップを塗り、具材を乗せて焼き上げました。トマトジャムには糖度の高いミニトマトを使用し、とても甘いトマトジャムが出来上がりました。学生は先生のレシピと直接指導により、手早く、短時間で多くのメニューができたことに感動していました。学生は日頃からトマト栽培に携わっていますが、トマトを加工することで様々なおいしい料理に早変わりすることに驚いていました。学生は、実習で覚えた料理を年

末に家に帰った際、家族に振る舞いたいと意気込んでいました。

(農学科 小嶋 博樹)

農業者生涯教育研修 イチジクのアザミウマ対策などを 学びました

農業者生涯教育研修（生産高度化研修）を11月30日（月）に愛知県果樹振興会との共催で開催しました。

今回のテーマは「イチジクのアザミウマ類対策及び消費拡大に向けて」と題し、県内からイチジク生産者など60名が参加しました。

はじめに、農業総合試験場環境基盤部病害虫研究室の石川博司主任専門員から説明がありました。イチジクのアザミウマ類対策として、農薬の果実への重点散布、静電噴口の使用、また赤色ネットの設置試験の結果、それぞれに有効性が報告されました。



[研修の様子]

次に同園芸研究部落葉果樹研究室の杉原巧祐主任専門員から、イチジクの育種の取組が報告されました。特徴のある果皮色や高糖度果実など期待の持てるものが紹介されました。

次に同企画普及部経営情報研究室の近藤貴士主任研究員から、イチジクに対する消費者の嗜好と購買意識について調査結果が説明され、イチジクをよく食べる人には愛

知県が産地であるなど知られているが、さらなる消費拡大のためのPRや販売方法が提案されました。

講演後に意見交換がされ、受講者からは、イチジクに使える農薬についての質問や、静電噴口の使用実感などの意見が出されるとともに、さらなる消費拡大には、健康に良いことを強調しPRすることが必要などが議論されました。また、研修後のアンケート結果では、参加者の9割以上が参考になったと回答しており、「データが農薬散布の参考になった」「消費者の嗜好を知ることができた」など好評で、有意義な研修となりました。

(就農支援科 柴田 健)

GAP研修を実施

12月9日（水）、西尾市吉良町で農業者生涯教育研修のうちGAP研修を愛知県農業水産局農業経営課との共催により開催し、一般応募者及び愛知農業次世代リーダー塾を含む25名の参加がありました。

この研修では、JGAPの認証を取得しているトマト生産者 天野正巳氏を訪ね、認証取得までの準備、審査状況、取得後の状況等について学ぶとともに、GAPを実践している温室を見学させていただきました。



[天野正巳氏による説明]

研修は、主に参加者が疑問に思っている

ことに天野氏が答える形で進行し、GAPに取り組んだ効果や整理すべき事項が明らかとなりました。また、農業経営課からGAPに取り組む意義について説明がありました。

終了後の受講者アンケートでは、取組の実態が分かって良かった、本音を聞くことができて良かった等の感想が多く寄せられました。

(担い手支援科 杉浦 直樹)

トヨタ生産方式を学ぶ (愛知農業次世代リーダー塾)

愛知農業次世代リーダー塾は、農業者が営農しながら高度な経営ノウハウを学ぶ場として、8月3日(月)に開講し、22名の受講者を対象に翌年1月27日(水)まで12回の講座を実施する予定で進めています。

11月13日(金)及び12月18日(金)に農業大学校で、第7回、第8回の講座を開催し、(株)経営技術研究所の代表取締役 藤井春雄氏から「トヨタ生産方式に学ぶ農業の生産性向上」について講義がありました。



[藤井春雄氏による講演]

この中で、経営の改善を進めるために、気づく人になるための訓練が行われました。また、人材づくり、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)、ハウレンソウ(報告、連絡、相談)の重要性について分かりやすく解説していただきました。さらに、実際

にイチゴパッキングセンター、カントリーエレベーター、水稲・露地野菜大規模農園等において実践された改善事例の紹介がありました。

終了後の受講者アンケートによると、講座内容を経営改善に役立てたいとの感想が多く、好評でした。

(担い手支援科 杉浦 直樹)

県民公開講座 「果樹剪定の基本」を開催!

「家庭で栽培する果樹剪定の基本」をテーマに、一般県民の方々を対象とした公開講座を12月11日(金)に開催し、50名の参加がありました。

講師は、元農業大学校教育部農学科職員で、現在は愛知経済連の技術主管で、県下の果樹農家を指導しておられる都築壽男氏にお願いしました。

講義では、家庭果樹の苗木の選び方、剪定の方法について、絵を描きながら講話いただきました。美味しい果実をならせるには、光を当てることが大事であり、光の当たる面積を増やすために剪定をしていくことが説明されました。

模範実技では、カキを中心に、講義で説明した剪定ポイントを実演しながら復習しました。残す枝の決め方、剪定のコツなどをウメの剪定でも実施し、丁寧に御指導いただきました。



[剪定のポイントを説明する講師]

研修後に実施したアンケートから、90%以上の参加者が参考になったと評価があり、「具体的な内容で、分かりやすい説明で良かった」「もっと長い時間やってほしかった」等の声があり、大変好評でした。

(就農支援科 河野 真砂子)

農福連携支援研修の閉講式を開催

12月7日(月)に農福連携支援研修の閉講式を実施し、研修生17名が修了しました。農福連携支援研修は、福祉事業所職員が施設の栽培ほ場で運営するために必要な基礎知識や技術を修得することを目的として実施しました。また、農家へ出向く施設外就労に向けて、農作業を行う作業員への確に作業方法が伝えられる手法を身につけるよう、農業の実際と指導方法について学びました。研修期間は6月22日(月)から12月7日(月)までで、講義と実習を14日間、視察研修会を1回行いました。



[収穫作業を学ぶ様子]

閉講式後、意見交換会を開催し、研修生一人一人が半年間の研修を振り返って、感じたこと、抱負、農大への要望等を発表しました。その後、職員、ほ場講師から、新型コロナウイルス感染防止対策のため開始延期に対するお詫びや、長雨での作業、夏場の高温時での頑張りに対して感心したことなどが語られました。研修生は、学んだことを、福祉施設に還元していきたいとの抱負が多

く聞かれ、野菜栽培の基礎を実習、講義で学べたことは良かったとの意見も多く出されました。



[閉講式での校長の式辞]

農大では、次年度も農福連携支援研修を実施します。そのため、研修生、ほ場講師から出された意見や要望を踏まえて、野菜栽培技術の修得研修を実施し、福祉関係の講義内容を増やす計画です。

(就農支援科 河野 真砂子)



農大からのお知らせ

◇新型コロナウイルス感染防止のためお願い◇

校内における新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、3つの密を避け、マスクの着用、手洗い・手指消毒を励行するなど、学生や研修生、職員への感染防止対策に取り組んでいます。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

なお、行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期もしくは中止となる場合があります。その際は、農業大学校ホームページ等でお知らせします。

◇令和3年度入学者選抜試験◇

一般入学二次試験

- 募集専攻及び募集人員

園芸農産課程

鉢物・緑花木専攻 若干名

切花専攻 若干名

畜産課程

養豚・養鶏専攻 若干名

- 出願期間：令和3年1月12日(火)から
令和3年1月27日(水)まで

- 入学願書

入学願書の「希望課程専攻名」については、第1希望から第3希望の欄に〇〇課程△△専攻と記載し、他の専攻を記載した願書は無効となりますので、注意してください。その他、出願手続き等詳細については「令和3年度入学生 愛知県立農業大学校農学科一般入学学生募集要項」に従い出願してください。

- 試験日：令和3年2月12日(金)
- 合格発表：令和3年2月25日(木)
- 試験科目：数学Ⅰ、小論文(800字以内)
面接試験

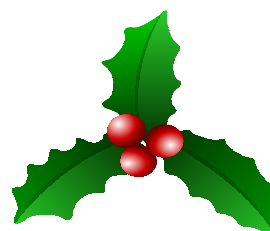
- 受験会場：農業大学校
詳細については、本校ホームページを御覧ください。
- 問合せ先：学務科(近藤) 0564-51-1602

◇令和2年度 経営管理研修◇

-パソコン農業簿記活用(財務諸表の活用)-

農業簿記の基礎知識のある方が、パソコンを活用した最新農業簿記ソフトの利用方法について学び、農業経営の向上に役立ちます。

- 開催日時：令和3年1月28日(木)
午後1時から4時30分まで
- 開催場所：農業大学校
- 対象者
農業簿記の記帳経験があり、パソコンの基本操作ができる、また、できれば、売り立て書、発注書等が持参できる方。
- 定員：農業者10名
- 研修内容
講義・実習
「パソコン農業簿記の活用方法」、「仕訳の入力」、「記帳結果の確認」、「減価償却」、「棚卸」、「決算書」
- 参加費：無料
- 申込方法
御住所を管轄する農林水産事務所農業改良普及課にお申込みいただくか、往復はがきで、愛知県立農業大学校までお申込みください。
- ※詳細は、本校ホームページを御覧ください。
- 問合せ先：担い手支援科(福井)
0564-51-1034



◇生産物実習販売ごよみ◇

令和3年1月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・販売日：1月6日、13日、20日、27日
(祝日を除く毎週水曜日です。)
- ・時 間：午後3時から
- ・場 所：農業大学校体育館他
※なお、袋入り堆肥は、第2機械庫前で販売します。(毎月第2水曜日)
- ・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

校内で家畜伝染病防疫対策実施中

農大では、鳥インフルエンザや豚熱など、家畜伝染病防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 関係車両等の消毒の徹底
(車両消毒槽、動力噴霧器)
- その他、諸防疫対策を実施

◇農業大学校の公式 SNS の アカウントを開設 !! ◇

農業大学校の公式 SNS として Twitter、Instagram のアカウントを開設しました。

ユーザーネームは「aichinoudai」です。

学校行事や専攻学習・実習販売の情報等、日々の活動を投稿していきますので、是非御覧ください。

- ・問合せ先：農学科(古川) 0564-51-1673